

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	DAW II	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース		教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。 また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。				
授業概要					
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 16～21回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 22～33回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成				
【後期】 34～35回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 36～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング				
【前期】 3～7回目	ビジネス文書				
【前期】 8～13回目	ミュージックビジネス # 1-6				
【後期】 14～32回目	ミュージックビジネス # 7-25				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	外部ライブハウス実習				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。</p> <p>題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。</p> <p>MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>					
到達目標					
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。</p> <p>授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。</p> <p>コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>					
授業計画・内容					
【前期】 1～36回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【前期】 37～38回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 39～71回目	アンサンブルとは何か 課題曲⑤～⑧ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 72～74回目	半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	スコアライティング&イヤトレ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	スコアライティング&イヤトレ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
相対音感及び読譜、PCでの楽譜作成ソフトによる譜面作成についての講義。					
到達目標					
単音、和音におけるインターバルの理解と相対音感の習得。楽譜作成ソフトによるマスター譜、パート譜の作成技術の習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	旋律聴音(半音、全音、メジャースケール上のインターバル) 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。				
【前期】 6～10回目	旋律聴音(3種類のトリックマイナースケール上のインターバル) 楽譜作成ソフト『Finale』の基礎操作方法 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方				
【前期】 11～15回目	旋律聴音(その他のインターバル①) 楽譜作成ソフトを使ったマスター譜の作成(コーダ切れなし) ・リピートマークのみを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【前期】 16～20回目	旋律聴音(その他のインターバル②) 楽譜作成ソフトを使ったマスター譜の作成(コーダ切れあり) ・ダカーボ、ダルセーニョを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【後期】 21～24回目	和音聴音(トライアド4種類 Maj、Min、Aug、Dim) 楽譜の作成、読譜に必要な基礎知識の復習、確認(音符、休符の種類、各種記号など) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 25～29回目	和音聴音(テトラッド Maj7、6th、7th) 楽譜作成ソフトの基礎操作方法(テンキーを使った音符のステップ入力) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 30～34回目	和音聴音(テトラッド m6th、m7th) 楽譜作成ソフトでのパート譜(ギター、ベース、ドラム)の作成(基礎編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 35～37回目	和音聴音(テトラッド aug7th、m7th b5th、Dim7th) 楽譜作成ソフトでのパート譜、TAB譜の作成(応用編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ベースベーシックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースベーシックⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1992年にロックバンドinfixのメンバーとしてメジャーデビュー。以後、ベーシストとして他アーティストのライブやレコーディングにも多数参加。楽器機材メーカーのモニターも務めています。				
授業概要					
1年生の授業で学んだ基本的な技術や知識の向上をめざします。クリックやドラム音源を使用したリズムトレーニング、コードやスケールなどの理論の解釈と活用法等、ベーシストとして必要なスキルを総合的に学びます。					
到達目標					
中級、上級フレーズを通じての表現力、フィジカルの向上。 現場に必要なテクニック、マインドを学びます。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	ベースラインの作り方① ・ルートにコードトーンを加えたベースライン。 ・ルートに経過音を加えたベースライン。				
【前期】 6～10回目	ベースラインの作り方② ・分数コードを使ったコード進行。 ・ダイアトニックコードの活用法。				
【前期】 11～15回目	ベースラインの作り方③ ・メジャーペンタトニックスケールの活用法。 ・マイナーペンタトニックスケールの活用法。				
【前期】 16～21回目	ベースラインの作り方④ ・ペンタトニックスケール+テンションノート。 ・ペンタトニックスケール+ブルーノート。				
【後期】 22～24回目	ベースラインの作り方⑤ ・チャーチモードスケールの活用法。 ・シャッフル等の3連符系のリズムへのアプローチ法。				
【後期】 25～29回目	ベースラインの作り方⑥ ・コード弾きやダブルストップ等の和音を弾く奏法。 ・ハーモニクスを加えた奏法。				
【後期】 30～34回目	ピッキング奏法 ・ダウンピッキングで音のツブを揃えてビートをキープする練習。 ・オルタネイトピッキングで16ビートのリズムや速いフレーズにも対応出来るようになる練習。				
【後期】 35～37回目	スラップ奏法 ・サムピング&ブルのコンビネーションを使った練習。 ・レフトハンドヒッティングミュート等のゴーストノートを使ったフレーズ練習。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ベースアドバンス		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースアドバンス	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験13年 学生時代に複数のコンテストで最優秀賞を受賞。アニメ作品やゲーム音楽公式バンド、ゲーム音楽、劇伴などの有名アーティストのライブ、ツアー、レコーディングに参加。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> コード理論を駆使したスコアリーディングの習得 5弦ベースやフレットレスベースの使用法 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 実践的なスコアの理解力を習得 5弦ベースやフレットレスベースを使って表現力の幅を広げる 					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	5弦ベース ・LowB弦を使ったスケール、アルペジオ練習 ・LowB弦を使った8beat、16beatフレーズ				
【前期】 6～10回目	5弦ベース ・LowB弦を使った課題曲(Rock) ・LowB弦を使った課題曲(Pops)				
【前期】 11～15回目	フレットレスベース ・スケール練習 ・イヤートレーニング				
【前期】 16～19回目	フレットレスベース ・課題曲(セッション曲、ジャズスタンダード曲)				
【後期】 20～24回目	理論復習Ⅰ ・ダイアトニックコードを使った基礎トレーニング ・メジャースケール、ナチュラルマイナースケールの基礎トレーニング				
【後期】 25～29回目	理論復習Ⅱ ・ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールの基礎トレーニング ・チャーチモード復習				
【後期】 30～34回目	ノンダイアトニックコード ・マスター譜のアナライズ ・課題曲の演奏				
【後期】 35～37回目	ディグリー ・ディグリーを使ったフレーズの展開方法				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ベーシストパフォーマンスⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベーシストパフォーマンスⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	音大卒業後アーティスト活動始動。2012年より現在ラウド・メタルバンドにて活動中。 2017年メジャーデビュー。自己のバンドでアーティスト活動をしつつ他アーティストの演奏サポートにも携わっている。 現在はアーティスト・表現者でのスキルアップの為芝居の勉強、役者の活動も行っている。				
授業概要					
ステージパフォーマンスの向上、仕事のパフォーマンス向上を目的とする。 ステージングでの動き方魅せ方。演奏以外の仕事での必要知識、社会的常識や運営、制作、DAW操作などのミュージシャン・アーティストとして必要な事を学ぶ。 また、好きなジャンルにだけ囚われない多角的に見れる感性育成。					
到達目標					
人から見られてる意識を持ちアーティスト、ミュージシャンというものは一人では成り立たないという事を認識し、円滑にLIVEステージ、制作を行うためには何が必要か。 お客様や関わる人と気持ちよく仕事するにはどうしたら良いかという思考回路を広げ、以下に示す知識・スキルの習得。 ・セルフプロデュース:ブランディング、SNSの活用、音楽業界を中心とした対人マナー・運営:バンド、自己の運営に必要な知識、ライブに必要な知識、コミュニケーション力・DAWを使用した制作全般。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	アーティスト・ミュージシャンの周りにいる人達。 ・活動をするにあたって関わる人達はどんな人がいるかを知る。・礼儀、所作・業界用語、ステージ機材記号用語の理解。 ステージ制作の考察				
【前期】 6～10回目	DAWの操作、制作向上。				
【前期】 11～15回目	オケ作成 ・コンテスト予選で使用するオケは楽曲制作ソフト等 でシステムを【歌以外使用せず】全て自身で作成を目指す。 それに向けての練習曲作成。(打ち込み、素材Rec、MIX)				
【前期】 16～19回目	ステージパフォーマンス研究 ・個々のスタイルを考慮した上で体全体を使って演奏、表現をする。・教室にてオケ作成した音源を使用し演奏パフォーマンス発表。・教室発表、アンフェスなど自身の出演した動画を見返して改善していく。				
【後期】 20～24回目	オケ作成Ⅱ ・発表会で使用するオケは楽曲制作ソフト でシステムを【歌以外使用せず】全て自身で作成を目指す。 課題曲作成。(打ち込み、素材Rec、MIX)				
【後期】 25～29回目	ステージパフォーマンス研究Ⅱ ・発表会に向けてのパフォーマンス練習。・教室にてオケ作成した音源を使用し演奏パフォーマンス発表。・教室発表動画を見返して改善していく。				
【後期】 30～34回目	運営、ブランディングの考察 ・SNS運営、写真や動画の撮り方撮られ方、注意点の考察。・デザインや映像・リリース、ツアーの流れで必要事項の考察。・運営でのお金の動き				
【後期】 35～37回目	個人制作シミュレーション ・擬似的に先生から制作依頼をし、授業時間内でREC、データをメール納品をする。 ・1連の流れを繰り返し、ビジネスメール修得。提出する際の注意点を理解する。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベース研究		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ベース研究	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験37年。高校卒業後、音楽学校に進学。 バンド活動を経てサポート、レコーディング等のプロとしての演奏活動を開始。 様々なアーティストのサポート、ミュージカルの劇伴を経験。現在はゴスペル・クワイアの演奏等で活動中。				
授業概要					
時代を代表するベースリストを国内外を問わず取り上げ、サウンド、ブレイズ等を音楽の歴史、時代背景に紐付けながら研究する。					
到達目標					
各時代のベースリストの個性を理解することから、現在自分が影響を受けているベースリストのルーツを知り、より音楽的な理解を深め、自己のスタイルの確立に役立てる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	Jazz 1 1950年代 エレクトリック・ベースが登場する以前のベースリスト ・チャールズ・ミンガス ・ロン・カーター ・レイ・ブラウン				
【前期】 4～6回目	Rock 1 1960年代 The Beatlesの登場以降のベースリスト ・ポール・マッカートニー・ジャック・ブルース ・ジョン・ポール・ジョーンズ				
【前期】 7～9回目	Funk 1 1960年代 Funk創世記のベースリスト ・ブツィー・コリンズ ・ジョージ・ポーターjr ・ラリー・グラハム				
【前期】 10～12回目	Pops 1 1960年代 ヒット曲の演奏を請け負ったスタジオ・ベースリスト ・ジェームス・ジェマーソン ・キャロル・ケイ ・ジョン・オズボーン				
【前期】 13～15回目	Rock 2 1970年代 プログレッシブ・ロックのベースリスト ・クリス・スクワイア ・ゲディー・リー ・トニー・レヴィン				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	Jazz 2 エレクトリックベースでジャズの可能性を拓いたベースリスト ・ジャコ・パストリアス ・スタンリー・クラーク				
【後期】 21～22回目	Funk 2 1970年代 ディスコ全盛期のベースリスト ・ヴァーダイン・ホワイト ・バーナード・エドワーズ ・ルイス・ジョンソン				
【後期】 23～25回目	Pops 2 1970年代 様々なアーティストの演奏を請け負ったスタジオ・ベースリスト ・チャック・レイニー ・アンソニー・ジャクソン ・リーランド・スクラー				
【後期】 26～28回目	Jazz 3 1980年代以降 モダン・ジャズ、フュージョンのベースリスト ・マーカス・ミラー ・ヴィクター・ウッテン				
【後期】 29～31回目	Rock 3 1980年代以降 ロックのベース奏法、サウンドを革新したベースリスト ・ピリー・シーン ・フィールドー ・アダム・ノリー・ゲットグッド				
【後期】 32～34回目	Funk 3 1980年代以降 ファンクとロックを融合させたベースリスト ・フリー ・スチュワート・ゼンダー				
【後期】 35～37回目 (後期試験)	Pops 3 J Popで数々の名演を残したベースリスト ・細野晴臣 ・亀田誠治 ・伊藤広規				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	アナライズ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アナライズ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	1992年ESP学園卒。LOUDNESS二井原実率いるDed Chaplinに加入し、その後X JAPAN(Tosh)のツアーメンバーを経てGERARDに加入。現在Sound Horizon / Linked Horizon、Fuki commune、桜庭統、GUILTY GEAR×BLAZBLUE(ゲーム)、霜月はるかなど、アニメ・ゲーム音楽の分野を中心に活動中。				
授業概要					
近年の商業曲(2000年以降)のアナライズ、フレーズの分析 ポップス、ロックにおいての上級テクニックの習得					
到達目標					
近現代の曲において演奏に必要な知識とテクニックを学ぶ。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	2000年以降のアニメソングや、ロック、ポップス系のアニメタイアップ曲を中心にベースラインを紹介 ・ベース以外の楽器、コード、メロディーを分析し、ベースラインの効果的なポジショニングと構成を学ぶ。 ・テンポを下げてフレーズの仕組みを分析				
【前期】 6～10回目	・フレーズを正確に演奏するための運指練習(メカニカルトレーニング) ・ユニゾンフレーズを分析し、スムーズなフィンガリングを習得する。				
【前期】 11～15回目	・複雑なリフやリズムを正確に弾くための練習(リズムトレーニング) ・多弦ベースやドロップチューニングしたベースを使用する楽曲を取り上げ、特性を理解する。				
【前期】 16～20回目	・前期に取り上げた課題曲の中から選曲し、総合的な練習 ・課題曲を実際の楽曲のテンポでワンコーラス以上を目安に演奏できるよう訓練する。				
【後期】 20～24回目	・劇伴音楽(ゲームのフィールド曲など)を題材に、情景に合わせた音色の表現力を身に付ける。 ・ベースソロやメロディにおける効果的なニュアンス(ビブラート、スライド)の練習				
【後期】 25～29回目	・ゲームや2.5次元、ポカロ曲などを中心にベースラインを紹介 ・コンピューターにより打ち込みで作られたフレーズなど、人間では難易度の高いフレーズをアレンジし、解決する力を身につける。				
【後期】 30～34回目	・3フィンガー、ライトハンド、タッピング、ロータリー奏法などテクニカルな奏法技術を学ぶ。 ・ロック、ポップスにおけるアレンジ上でのジャズやラテンのフレーズを研究する。				
【後期】 35～37回目	・後期に取り上げた課題曲の中から選曲し、総合的な練習 ・課題曲を実際の楽曲のテンポでワンコーラス以上を目安に演奏できるよう訓練する。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	インプロヴァイズ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	インプロヴァイズ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験22年。 その後様々なアーティストのサポートや自身の参加するグループで活動。現在はゴスペルバンドを中心に演奏活動を行う。				
授業概要					
様々なジャンルに対する理解と研究。 ポップス、ロック、ファンク、ジャズ、ボサノヴァ、ラテンなどアドリブでフレーズ作成。 ブルースや定番セッション曲なども取り上げ、楽曲分析と実践。					
到達目標					
自分の得意ジャンルだけでなく、必要とされた時に対応できる力を養う。 どんな状況でも演奏できる知識を学ぶ。 演奏技術向上の為、様々なジャンルの分析を行い自身のアイデアとスキルを拡大させます。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	コードトレーニング ・サイクル5によるコードアルペジオ ・Simileによる4小説のコード進行のトレーニング				
【前期】 6～10回目	ブルース曲の分析 ・ベースラインのアイデアのバリエーションを増やし、オリジナルのラインの実践。 ・いくつかのアイデアによるソロの研究。				
【前期】 11～15回目	スケールとコードアルペジオ ・Simileによる4小説のコード進行のトレーニング ・8小説のコード進行のトレーニング1				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	ロック、ポップス、ファンク曲の分析 ・ベースラインやリックのアイデアのバリエーションを増やす。 ・曲中のコード進行を使ってオリジナルのラインへの応用。				
【後期】 21～25回目	スケールとコードアルペジオ ・Simileによる8小説のコード進行のトレーニング2 ・16小説のコード進行のトレーニング				
【後期】 26～30回目	ジャズスタンダード曲の分析 4ビートのライン考察。 ・ベースラインのアイデアのバリエーションを増やし、オリジナルのライン作成。 ・いくつかのアイデアによるソロの研究。				
【後期】 31～34回目	ボサノヴァ、ラテン、レゲエ ・スタンダード曲の分析と研究。 ・代表曲の読譜、演奏				
【後期】 35～37回目 (後期試験)	セッション定番曲の考察と実践。 ・代表曲の演奏 ・オリジナルのアイデアのまとめ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					